

CD

The Art of Euphonium

〈ユーフォニアムの芸術〉

演奏学科弦管打楽器専修（ユーフォニアム）3年 東條 怜

現在この図書館の録音資料は約6万点ありまして：なんて案内を先日の基礎ゼミでやらせていたのだが、自分でもイマイチ6万点という数字にはピンと来てない。

その膨大な資料の中から僕が聴いて感銘を受けたものは沢山あって、この機会に何を紹介しようか悩んだけれどせっかくなのでユーフォニアムのCDを紹介したいと思う。

最近ユーフォニアムという楽器も少しずつ知名度を増している（と思いたい）のでネガティブな説明は割愛する。

そもそも金管楽器は産業革命による金属加工技術の賜物に他ならず、その産業革命が興った国イギリスではブラスバンドが盛んだ（ブラスバンドでは吹奏楽以上にユーフォニアムが大活躍する）。

ブラスバンドは映画『ブラス！』の中で見られるように炭坑や工場労働者から始まった音楽で、教会音楽や宮廷音楽をルーツにする

クラシック音楽とは少し違う。このようなユーフォニアムのルーツをたどる形でこのCDの選曲はされている。

1曲目はブラスバンドとコレネットDuoのために書かれたコンチエルティノー・クラシコ。この曲はユーフォニアムのDuoでもよく知られている。

7曲目のフィリップ・ウィルビーのユーフォニアム協奏曲はとても技巧的で、求められる表現の幅などもユーフォニアムらしく聴き応えのある曲。ウィルビーはイギリスの作曲家であるが、2楽章ではギリシアのゼイベキコスという激しい踊りを題材にしている。

ヨーロッパには昔からクラシック以外の音楽もたくさんある。それらを芸術音楽へ昇華するのは挑戦であるが、芸術音楽の表現手段としてユーフォニアムにはその必須要素は備わっていると思う。

辞典によれば「クラシックとはその分野を代表し後世まで伝えら

れるような立派な著述「作品」。芸術とは「特定の材料／様式によって美を追求する表現やその活動と所産」というようなことらしい。芸術とエンターテイメントは違う！という話を何かで読んだけど、芸術は必ずしもハッピーな表現ばかりではないし、理解に時間がかかることもある。又、時に悲しさや怒りさえも表現する。

ゴリラは成長すると笑わなくなるが人間は違う（というCMがありますよね？）人間は高い感受性を持つているからこそ喜怒哀楽があり、それを表現した芸術に深く共感するんだと思う。その共感こそが後世へも伝わる力なのだろう。ユーフォニアムの音色はとても美しい。ユーフォニアムを知っている人なら特徴として音色を挙げ

ることが殆どだと思う。このCDで聴く深石宗太郎先生の音色も表情がとても豊かで面白い。ユーフォニアム奏者にはそれぞれが持つ音色の美学のようなものがあると僕は思う。単に良いサウンドというだけでなく、それも音楽的（芸術的）な価値になるのではないかなと思う。まだまだ芸術ということを掘り下げるのは僕にとつて難しいけど、このCDはそれを少し考えるきっかけになった1枚です。

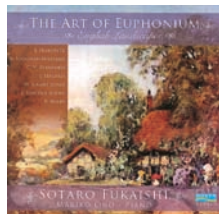
Book

親愛なるモイーズ

演奏学科弦管打楽器専修（フルート）3年 平野 景子

この本を手にとると表紙から熱い視線を感じる。ぐりつとした腫が印象的なフルート吹きは巨匠

マルセル・モイーズだ。歴史の本とか自伝とか、小説以外の印字を読み始めると5分で寝てしまう私



請求記号●XD60758
The art of euphonium ;
English landscapes /
深石宗太郎 Doyen
DOYCD825

だがこの本は違う。自分がフルートを勉強しているから、という理由はあるかもしれないが、いやいやや本当におもしろいから、まずは借りてみてほしい。

この本はモイーズの教え子や家族・友人達に彼について回想する形で書かれている。良い思い出も悪い思い出もありのままにあらわされているので、巨匠も人間の

だ、と、少し勇気がわいてくる。例えば彼のところには著名なフルーティストやこれからプロとして活動していくという学生たちが多くやってきた。そのほとんどが彼からの賛辞を期待していたのだが、その奏者が音楽の基本原則を無視して、超絶技巧の曲を見せびらかす様に吹こうものなら、モイーズは激怒して腕をふり回すか、不愉快になって10分ほど黙ってパイプをふかすということになってしまった。他の奏者が気に入らない音楽の解釈をした時や、自分について書かれた文章に腹を立てた時とはところかまわず「クソつたれ！」と言って相手を罵ってしま

うことも少なくなかったのだ。気難しく短気で、正直しんどいおじさんだったモイーズ。けれどもそれは、彼の目指す音楽が私

ちの想像以上に高いものだったため、妥協を許すことができなかったのだ。彼はフルートや音楽以外の場面では、人を笑わせることが好きな愛情にあふれた気取らない人だった。時にはお金がなくて困っている知人を、自分が借金をしてまで助けたこともあった！（良い子は、できるだけマネをしないように。）

他にもたくさんエピソードがあるが、これらは自分で読んでみてほしい。そしてできれば、モイーズの演奏も聴いてみてほしい。（図書館にも幾つかCDがおいてあるので）華やかでまるで歌をうたっているかの様なモイーズの演奏はドラマチックで、愛にあふれている。彼のフルートを聴いてこの本を読めば、きっと貴方もこのつむじ曲がりのおじいさんを好きにならずにはいられないと思う。



請求記号●C60-347
ワイ、トレバー『マルセル・モイーズ：フルートの巨匠』
音楽之友社 ※現在は絶版

●ひらのけいこ 私が眠らない様な面白い本や音源・映像をご存知の方とご紹介してください。(笑)

図書館のら・ご・き

図書館委員会のメンバー留任：平成21(2009)年度～22(2010)年度

図書館委員会とは、図書館運営に関する館長の諮問機関です。任期は2年、今期は平成19(2007)年度～20(2008)年度の先生方に留任していただきました。前期就任時、各先生のご紹介を兼ねてアンケートを実施、『ぱららんど』255号に回答を掲載してありますのでご覧ください。また、次号からは、資料紹介の新しいコーナーを担当していただくことになりました。お楽しみに。

一ノ瀬俊和 江崎公子 大友太郎 加藤一郎 酒井美恵子 末松淑美 友利修 藤井喬梓
トーマス・マイヤー=フィービヒ 磯山雅(特別委員:任期1年) (敬称略 五十音順 以下同様)

蔵書の見直しを行っています

図書館は建築されてから40年以上が経ち、建物そのものもかなり古くなっていますが、資料も増え、40年前の古い資料もそのまま所蔵されています。そのため、資料の置き場所である書庫スペースが足りなくなってきましたので、平成17(2005)年度から音楽関係以外の所蔵図書の見直しを行っています。内容として古くなり、現在の授業には参考にならなくなってしまった資料などの廃棄を進めることで、新しい資料の置き場所を確保することを目的としています。昨年度(2008年度)からは図書館委員会の中に、「蔵書構成見直し小委員会」を立ち上げ、書庫の中に入っていた

蔵書構成見直し小委員会： 江崎公子(座長) 加藤一郎 友利修

(主任司書)